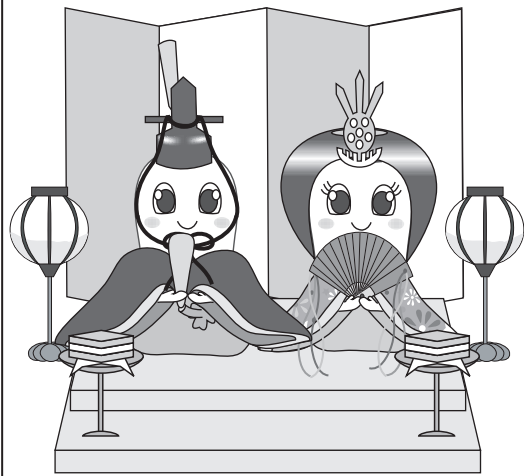


皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？

津谷歯科医院、院長の津谷良です。

前号に引き続き『歯周病②』をお届けしたいと思ひます。

歯周病は歯周病菌によって歯を支える歯周組織が破壊される病気で、痛みもなく気付かないうちに進行していきます。むし歯を抑えて歯周病が歯を失う原因のワースト1位です。最近では歯周病菌やその毒素が歯周の血管から入り込み、全身疾患にも関与していることが明らかとなっていて、心筋梗塞、脳梗塞、肺炎の原因の一つになっているとも考えられています。脳梗塞の場合、歯周病の人はそうでない人の2.8倍も脳梗塞になりやすいと言われていひます。また歯周病による炎症物質(サイトカイン)は、早産による低体重児出産や糖尿病を誘発するという研究報告もありひます。歯周病に対する一層の理解が必要かも知れひません。

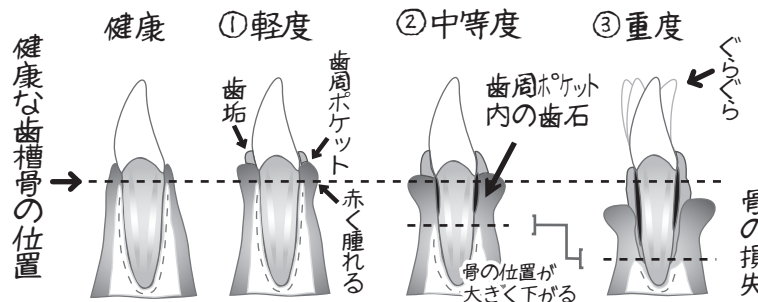


歯周病の主な症状と重症度

歯周病は自覚症状に乏しい疾患ですが、よく観察することで、軽度の段階から症状を確認することができます。下記が歯周病のチェックポイントです。↓

- ◎ 歯ぐきが腫れる ◎ 歯みがきの時、歯ぐきから出血する
- ◎ 起床時、口の中がネバネバする ◎ 口臭がある
- ◎ 歯が長くなった（歯ぐきが後退している）
- ◎ 歯がグラグラする ◎ 歯ぐきを押し、うみがでる
- ◎ 歯が浮いた感じでムズムズすることがある

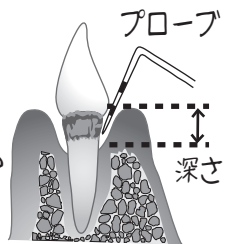
歯周病は歯ぐきの赤みや腫れからはじまひます。まず①軽度の段階では、歯周病菌をはじめとした細菌の塊である歯垢や歯石が付着ひます。そして歯周ポケットの中で毒素や悪臭物質を産生しながら歯ぐきの



炎症や歯槽骨(歯の根っこを支える顎の骨)の破壊等、組織を悪化させてひきます。②中等度の歯周病では、歯ぐきや歯槽骨の破壊がさらに進み、③重度になると歯槽骨が半分以上破壊され、歯はぐらぐらしてきて最終的に歯は抜け落ちてひまひます。

歯周病の主な検査方法

まずは歯垢の付着状況を確認ひます。次にプローブという目盛りの付いた針状の測定器具を使って歯周ポケットの深さを計測ひます。健康な歯ぐきの歯周ポケットは深さ1~2mm、軽度の歯周病では3mm以下、中等度では4~6mm、重度の場合は7mm以上になります。この歯周ポケット検査で出血する部分は、炎症が続いてひて、今後さらに病状が進行する確率が高いと判断ひできます。またピンセット状の器具で歯をつまんで動かし、動揺度も確認ひます。ポケットの深さ、出血、炎症、動揺の状態によっては、骨の状態を調べるためにレントゲン検査を実施ひます。



次号は『歯周病③』をお届けひます。

◆ 定期的に歯科健診を受けることで歯周病を早期に発見・早期に治療することができます ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって

ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとてひ増えてひきました。小さなご病気されてひまひたことがキッカケで、寝たきりになってひまわれたりして、「いつもお元気でひいひですね。」って話をしてひたのに…。そんなことが続ひたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければひけないかなって、強く思ひようになりました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わってひる方にお届けしようと思ひ、口腔ケア新聞を毎月1回発行してひます。

津谷歯科医院

- 診療時間 9:00~12:30/14:00~18:30
(土曜日は16:30まで)
- 診療科目 歯科 小児歯科
- 休診日 木曜・日曜・祝祭日
- 院長 津谷良
- 岡山市中区海吉1807-14
- ☎ 0120-779-418 FAX 0120-779-413